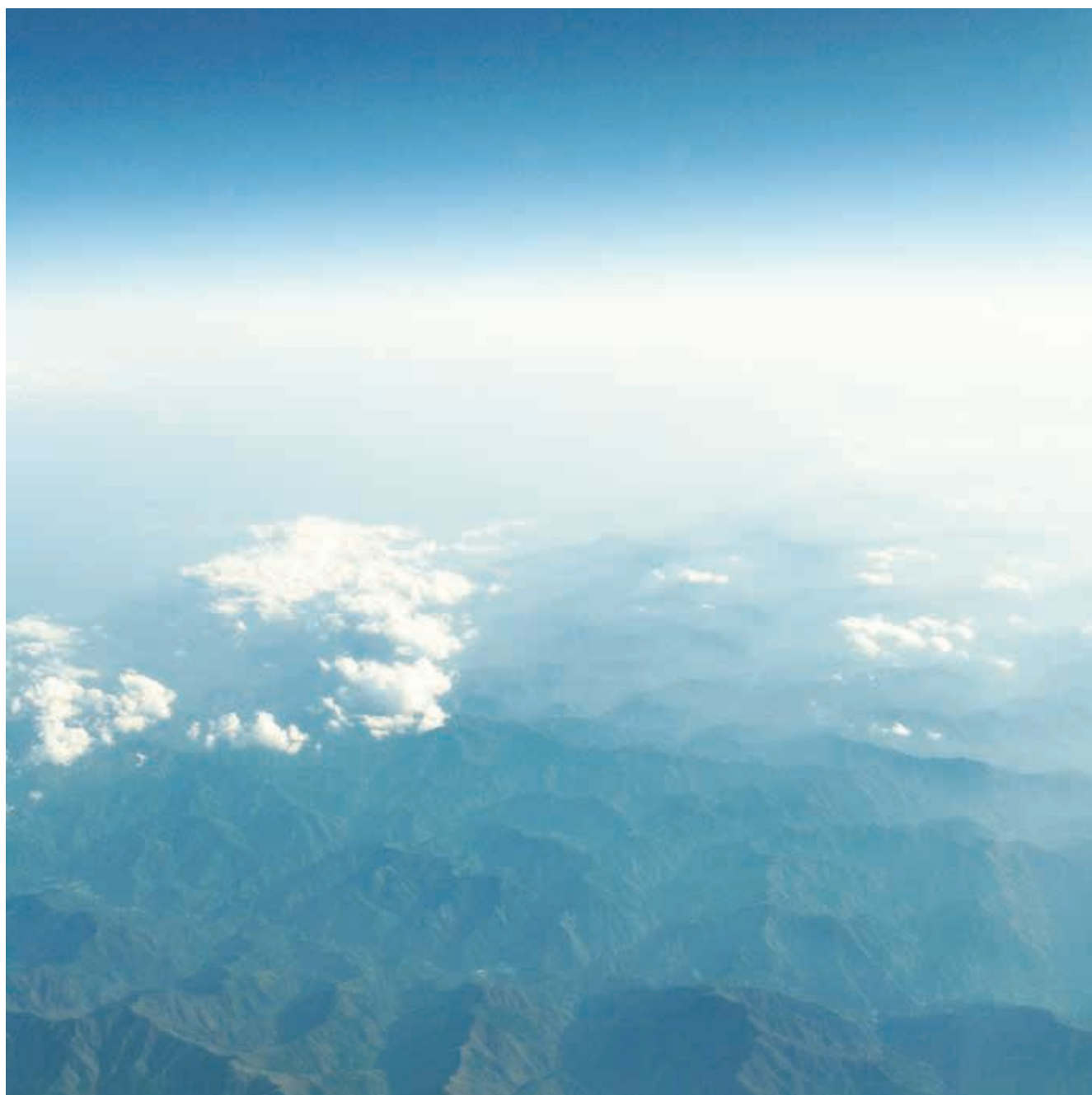


Asian Journal of
**HUMAN
SERVICES**

Printed 2012.1030 ISSN2186-3350
Published by Asian Society of Human Services

October 2012
VOL. 3



ORIGINAL ARTICLE

保護者が考える学校及び障害児放課後活動の役割と子どもの年齢、性別、在籍学校との関連

Relation between the importance of school education and after-school activity programs and age, sex, and school type for school-aged children with disabilities

奥住 秀之¹⁾ (Hideyuki OKUZUMI), 池田 吉史¹⁾³⁾ (Yoshifumi IKEDA)
平田 正吾²⁾³⁾ (Shogo HIRATA), 國分 充¹⁾ (Mitsuru KOKUBUN)
清水 夏実⁴⁾ (Natsumi SHIMIZU)

1) 東京学芸大学

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

okuzumi@u-gakugei.ac.jp

2) 千葉大学

3) 日本学術振興会特別研究員

4) かつしか風の子クラブ

ABSTRACT

本研究では、奥住・池田・國分・北島(2012)と同一のデータベースを用いて、学齢期の障害児の保護者が学校と放課後活動に対して重視していること 11 項目と、子どもの年齢、性別、在籍学校との関連を調べた。6つの放課後活動グループを利用する保護者 198 名に調査用紙を配布し、回収数 127 部 (回収率は 64.1%)、有効回答数は 114 部 (57.6%) であった。学校に重視していることについては、特別支援学校より小学校等に通う子どもの保護者で「文字や計算など、子どもが基本的な学力を獲得すること」を、女子よりも男子の保護者で「身辺自立など子どもの日常生活に必要な力をつけること」を、小学校等よりも特別支援学校に通う子どもの保護者で「保護者のレスパイト(休息・介護負担軽減)を保障すること」を学校に重視していた。放課後活動に重視していることについては、低年齢の子どもの保護者ほど「交通機関の利用など、子どもが社会生活に必要な力を身に付けること」を放課後活動に重視していた。

This study investigated the relation between the importance of school education and after-school activity programs and age, sex, and school type in school-aged children with

Received
September 6, 2012

Accepted
October 12, 2012

Published
October 31, 2012

disabilities. For this study, 198 parents from six programs were administered a self-report questionnaire, yielding data of 114 parents (57.6%). Parents with children attending primary school regard academic skills as important in school education. Parents with male children regard ADL skills as important in school education. Parents with children receiving special needs education school think of respite services as necessary. Parents with young children regard social abilities as important in after-school activity programs.

<Key-words>

特別支援学校、放課後活動、障害児の保護者

special needs education school, after-school activity programs, parents of children with disabilities

Asian J Human Services, 2012, 3:131-137. © 2012 Asian Society of Human Services

I. はじめに

放課後活動は、学齢期の障害のある子ども（以下、障害児とする）にとって、家庭、学校と並ぶ「第三の生活・活動の場」である。そこには学校とは異なる集団での活動があり、障害児の発達保障にとって重要な意味があるとされている(品川, 2001 ; 奥住, 2009 ; 黒田, 2005 ; 丸山, 2007)。しかし、その意義の高さに反して制度は不安定な試行錯誤であり(田中, 2001 ; 渡邊, 2001)、2011年度までは障害者自立支援法による児童デイサービスなどを中心として行われていた。2012年度からは改正児童福祉法による放課後等デイサービスとして行なわれることになった。

放課後活動と学校との関係については、たとえば学校には教育課程や指導計画があり、学校教育として行うべき授業や活動が多数用意されている。一方、放課後活動は、その種類にもよるが、そうした制約の少ない環境で活動がなされる場合が多い(奥住, 2008)。こうした違いから、両者の相互連携の必要性が近年ますます指摘されている(奥住・端山・村岡, 2010 ; 丸山, 2011a)。送迎やボランティアの専門性など放課後・休日支援に対する障害児の保護者の要求・ニーズを明らかにした研究は少なくないが(津止・立田, 2005 ; 丸山, 2009a ; 丸山, 2009b ; 丸山, 2011b ; 丸山, 2011c)、しかし、学校との対比でそれが検討されたものは、奥住・池田・國分・北島(2012)を除くとほとんどない。

その奥住・池田・國分・北島(2012)では、東京の障害児放課後活動を利用する障害児の保護者を対象に、学校と放課後活動で重視することの違いの比較検討が行われている。学校、放課後活動について、重視するかどうかの11項目それぞれが4段階評定される。その結果、放課後活動よりも学校に重視する役割として「文字や計算など、子どもが基本的な学力を獲得すること」、「身辺自立など子どもの日常生活に必要な力をつけること」、「子どもが言葉やコミュニケーションの力などをつけられるようにすること」、「子どもが対人関係やソーシャルスキルを身につけること」、「交通機関の利用など、子どもが社会生活に必要な力を身につけること」の5点を、逆に学校よりも放課後活動に重視する役割として、「子どもが安心して

過ごせる居場所を作ること」、「保護者のレスパイト(休息・介護負担軽減)を保障すること」、「保護者の就労を保障すること」の3点を指摘した。学力、コミュニケーション、ソーシャルスキルなどの獲得については学校に重視する一方、放課後活動は安心できる居場所であり保護者のレスパイトという位置づけである。こうして、障害児の保護者一般が考える学校と放課後活動との重視する中身の違いが明らかにされたが、子どもの年齢や在籍学校などの影響はここでは検討されていない。

そこで本研究では、奥住・池田・國分・北島(2012)と同じ保護者のデータベースを用いて、学齢期の障害児の保護者が学校と障害児放課後活動それぞれに対して重視していることについて、子どもの年齢、性別、在籍学校との関連を調べ、そこから両者の違いについて検討する。

II. 方法

(1) 対象

奥住・池田・國分・北島(2012)で発表したものと同一のデータベースを用いた。学齢期の障害児を対象に放課後活動を行なっている6か所の「障害児放課後グループ連絡会・東京」に加盟するグループに調査を依頼し、承諾を得た。どのグループも開所日は週5～6日と、多くの日の放課後(あるいは休日)の利用が可能である。「障害児放課後グループ連絡会・東京」は、1991年に結成された、東京都内に所在する障害児の放課後活動(学校休業日も含む)を実施するグループの連絡会である。その6か所を利用する子どもの保護者198名に調査用紙を配布し、回収数は127名(回収率は64.1%)、うち欠損値のない有効回答数は114名(57.6%)で、それを分析対象とした。調査は2011年度に実施した。回答は無記名である。114名の属性については、回答者は母親105名、父親9名。対象児童生徒の性別は女子26名、男子88名。学校は小学校(小学部)45名、中学校(中学部)39名、高等部30名。在籍学校は特別支援学校93名、小・中学校21名であった。

(2) 質問紙の構成と質問項目

表1、2に重視しているかどうかに関する11の質問項目を示す。それぞれの項目について、「学校に重視していること」と「放課後活動に重視していること」を問う形式とした。「全く重視していない」(1点)、「あまり重視していない」(2点)、「やや重視している」(3点)、「とても重視している」(4点)の4件法で回答を求めた。回答者の基本情報については、利用する施設名称、子どもとの続柄、子どもの年齢・学年、子どもの性別、子どもの通う学校の種別を尋ねた。得られたデータはデータベースソフトでデータベース化したのち、重回帰分析(一括投入法)を行った。11項目それぞれの評価を従属変数、子どもの年齢、性別(女子0、男子1)、在籍学校(特別支援学校0、小学校等1)が独立変数である。統計処理にはSPSSを用いた。

III. 結果

表1は、学校で重視することについての重回帰分析（一括投入法）の結果をまとめたものである。重相関係数 R が有意だった項目は、問2「文字や計算など、子どもが基本的な学力を獲得すること」、問3「身辺自立など子どもの日常生活に必要な力をつけること」、問10「保護者のレスパイト(休息・介護負担軽減)を保障すること」の3項目であった。有意だった項目について独立変数の標準偏回帰係数 B をみる。問2では在籍学校が有意であり、特別支援学校よりも小学校等に通う子どもの保護者の方が「文字や計算など、子どもが基本的な学力を獲得すること」を学校に重視している。問3では性別が有意であり、女子よりも男児の保護者ほど「身辺自立など子どもの日常生活に必要な力をつけること」を学校に重視している。問10では在籍学校が有意であり、小学校等よりも特別支援学校に通う子どもの保護者の方が「保護者のレスパイト(休息・介護負担軽減)を保障すること」を学校に重視している。

表2は、放課後活動で重視することについての重回帰分析（一括投入法）の結果をまとめたものである。重相関係数 R が有意だった項目は、問9「交通機関の利用など、子どもが社会生活に必要な力を身に付けること」だけであった。独立変数の標準偏回帰係数(B)をみると有意だった独立変数は年齢であり、低年齢の子どもの保護者ほど「交通機関の利用など、子どもが社会生活に必要な力を身に付けること」を放課後活動に重視している。

表1 学校に重視することに関する重回帰分析結果

項目	標準偏相関係数(B)			重相関係数(R)
	年齢	性別	在籍学校	
1 子どもが安心して過ごせる居場所を作ること	-.066	-.056	-.032	.089
2 文字や計算など、子どもが基本的な学力を獲得すること	-.149	.032	.295**	.351**
3 身辺自立など、子どもの日常生活に必要な力をつけること	-.089	.254*	.012	.262*
4 子どもが言葉やコミュニケーションの力などをつけられるようにすること	-.176	.02	.018	.179
5 子どもの成長・発達の土台を豊かにすること	-.056	.112	-.003	.122
6 子どもが友だちや同年代の仲間と過ごすこと	.059	-.123	.123	.188
7 子どもが趣味に繋がる活動を見つけ、それを楽しむこと	.033	-.117	-.032	.119
8 子どもが対人関係やソーシャルスキルを身に付けること	-.012	.102	.136	.157
9 交通機関の利用など、子どもが社会生活に必要な力を獲得すること	.086	.053	.036	.102
10 保護者のレスパイト(休息・介護負担軽減)を保障すること	-.079	.029	-.282*	.284*
11 保護者の就労を保障すること	-.045	-.043	-.138	.137

+p<.10 *p<.05, **p<.01

Received
September 6,2012Accepted
October 12,2012Published
October 31,2012

表 2 放課後活動に重視することに関する重回帰分析結果

項 目	標準偏相関係数(B)			重相関係数 (R)
	年齢	性別	在籍学校	
1 子どもが安心して過ごせる居場所を作ること	-.095	-.118	-.047	.152
2 文字や計算など、子どもが基本的な学力を獲得すること	-.065	-.155	-.113	.184
3 身辺自立など、子どもの日常生活に必要な力をつけること	-.217 ⁺	-.101	-.15	.256 ⁺
4 子どもが言葉やコミュニケーションの力などをつけられるようにすること	-.183	-.109	.033	.231
5 子どもの成長・発達の土台を豊かにすること	.019	-.024	-.072	.077
6 子どもが友だちや同年代の仲間と過ごすこと	-.079	.185	.004	.196
7 子どもが趣味に繋がる活動を見つけ、それを楽しむこと	-.143	-.08	-.109	.178
8 子どもが対人関係やソーシャルスキルを身に付けること	-.123	-.064	-.048	.139
9 交通機関の利用など、子どもが社会生活に必要な力を獲得すること	-.325 ^{**}	-.087	-.044	.336 ^{**}
10 保護者のレスパイト（休息・介護負担軽減）を保障すること	-.202	.056	-.133	.229
11 保護者の就労を保障すること	-.04	-.046	-.005	.062

+p<.10 *p<.05, **p<.01

IV. 考察

本研究では、奥住・池田・國分・北島(2012)と同一のデータベースを用いて、学齢期の障害児の保護者が学校と障害児放課後活動に対して重視していることについて、子どもの年齢、性別、在籍学校との関連を重回帰分析により調べた。

学校に重視していることについてモデルで説明可能な項目は3つであった。まず、基本的な学力の獲得である。この能力については、奥住・池田・國分・北島(2012)で、保護者一般には放課後よりも学校で重視されているという結果が得られている。今回の分析から、同じ学校でも特別支援学校より小学校等の方で重視されていることが明らかとなった。これは児童生徒の障害の程度や教育課程で教科学習をより重視する傾向にある等を勘案すれば、おおむね妥当な結果であろう。一方で、身辺自立、コミュニケーション、ソーシャルスキルなどの獲得については、特別支援学校で特に重視されているわけではないことにも注意を払う必要がある。小学校等に通う障害児の保護者は、読み書き計算等の学習スキルのみならず生活上の力量形成をも希望していると推察される。

身辺自立などの日常生活に必要な力の指導もまた、奥住・池田・國分・北島(2012)では、放課後活動よりも学校での獲得を重視している。今回の分析から、学校で女子よりも男子でとりわけ重視されていることがわかった。これは障害のある男子が女子よりも身辺自立などの課題が顕著であることを示唆するが、一方で保護者の子どもの見方の性ステレオタイプを考える必要もあるだろう（遠藤, 2005）。丁寧な知見の積み重ねが必要である。

3つめのレスパイトとしての役割は、小学校等よりも特別支援学校で重視するという分析

結果となった。学校は、当然のことではあるが、レスパイト機関でない。奥住・池田・國分・北島(2012)からも、学校よりも放課後活動でこの役割は重視されるという結果が得られている。しかし、学校だけに注目すれば、子どもが学校に行っている間の保護者の時間保障ということの重要性もまた示唆されるのである。そう考えると特別支援学校でとりわけこれが重視されたということは妥当であり、その背景には子どもの障害の程度や支援の必要度などが推察される。

一方、放課後活動に重視していることでモデルが説明可能だったものはわずか1つであった(有意傾向($p<.10$)のものは1項目あった)。交通機関の利用などの社会生活に必要な力の獲得で子どもの年齢が低いほど重視するということは、保護者が早くにこうした力量を活動の中で身につけさせたいと考えている結果と推察される。有意傾向ではあるが、身辺自立の力の獲得についても低年齢の保護者が重視するという同様の傾向が得られており、この推測の妥当性を説明するだろう。しかし一方で、奥住・池田・國分・北島(2012)では、生活上の力の獲得の場という役割は放課後活動ではなく学校が担うと保護者一般は考えていることには注意を払いたい。今回の結果はそうした役割が少なからずあることを示唆するものではあるが、多くの保護者の障害児放課後活動の意味は安心できる居場所だということは確認しておきたい(奥住・池田・國分・北島, 2012)

なお、今回、放課後活動については、取り上げた年齢、性別、在籍学校の3要因ではほとんどの項目をモデルが説明しなかった。他の要因を推定しつつ、さらに研究を進める必要があるだろう。

付記

調査にご協力頂きました6か所の障害児放課後活動グループと、そこを利用する保護者の皆様に感謝申し上げます。

文献

- 1) 遠藤由美 (2005) パーソナリティとジェンダー. 中島義明・繁杵算男・箱田裕司編. 新・心理学の基礎知識. 有斐閣ブックス. 294 頁.
- 2) 黒田学 (2005) 学齢障害児の放課後生活支援と余暇保障. 障害者問題研究, 32, 293-300.
- 3) 丸山啓史 (2011a) 障害のある子どもの放課後活動と学校との連携をめぐる実態と課題. SNE ジャーナル, 17, 203-216
- 4) 丸山啓史 (2011b) 障害児を育てる母親の就労に影響を与える要因. 京都教育大学紀要, 118, 81-90
- 5) 丸山啓史 (2011c) 知的障害の軽い子どもの放課後・休日の実態と課題. 京都教育大学紀要, 119, 99-111.
- 6) 丸山啓史 (2009a) 障害のある子どもの放課後・休日支援の現状と課題. 障害者問題

- 研究, 36, 312-319.
- 7) 丸山啓史 (2009b) 特別支援学校に通う障害のある子どもの放課後・休日支援の現状と課題ー京都府における保護者対象質問紙調査よりー. 京都教育大学紀要, 114, 149-161.
 - 8) 丸山啓史 (2007) 社会教育・生涯学習をめぐる課題. 荒川智・越野和之・全障研研究推進委員会編 障害者の人権と発達. 全国障害者問題研究会出版部. 152-161 頁.
 - 9) 奥住秀之・池田吉史・國分充・北島善夫 (2012) 障害児放課後活動を利用する保護者における活動で重視することとその利用における困難事項. SNE ジャーナル, 18, 97-108.
 - 10) 奥住秀之・端山花子・村岡真治 (2010) 障害児放課後活動グループにおける学校との情報交換の実態と課題. 東京学芸大学紀要 総合教育科学科系 I, 61, 231-236.
 - 11) 奥住秀之 (2009) 放課後・休日活動を推進するために. 東京学芸大学特別支援教育研究会編. 広げよう放課後・休日活動 障害児が参加する放課後子どもプラン. 東京. ジェアース教育新社. 15-18 頁.
 - 12) 奥住秀之 (2008) 放課後実践と子どもの育ち. 放課後連・東京 (2008) 障害のある子どもが育つ放課後活動 放課後連・東京実践記録集 (第一集) . 107-116 頁.
 - 13) 品川文雄 (2001) 障害児の放課後生活保障の展望. 障害者問題研究, 29, 33-41.
 - 14) 田中斎 (2001) 学齢期の放課後、長期休暇時の地域サービスー地域療育等支援事業からみたニーズの実情ー. 発達障害研究, 23, 77-84.
 - 15) 津止正敏・立田幸代子 (2005) 障害児・家族の生活実態と地域生活支援: 京都・障害児放課後休日実態調査から. 障害者問題研究, 32, 285-292.
 - 16) 渡邊和弘 (2001) 休日。放課後における障害のある子どもの地域活動促進の展望ー東京都の先進例をふまえた全知 P 連の地域活動促進・ボランティア養成事業を通してー. 発達障害研究, 23, 85-95.

Received
September 6, 2012

Accepted
October 12, 2012

Published
October 31, 2012

CONTENTS

REVIEW ARTICLES

- How Did 'Difficult to Involve' Parents Emerge in Early Childhood Care and Education?
-A Discussion of Research Trends on Family Support and Relationship with Guardians..... **Tetsuji KAMIYA** • 1
- The Review of the Studies on the Fall Prevention Exercise Programs for Elderly Persons..... **Jaejong BYUN** • 16
- Current issues in driver's license of people with intellectual disabilities..... **Atsushi TANAKA** • 32

ORIGINAL ARTICLES

- The Changing Characteristics of In-home Care Service Providers in the U.S. and in the
UK: Implications for South Korea **Yongdeug KIM,et al.** • 38
- Assessing Training System for Social Service Workers in South
Korea: Issues and Policy Agenda **Jaewon LEE,et al.** • 60
- Relationship between depression and anger **Noriko MITSUHASHI,et al.** • 77
- Workaholism Determinant Variables of Social Workers and Care Workers
in Senior Welfare Centers in Korea **Jungdon KWON,et al.** • 87
- The Exploration of Financial Resources of Financial Adjustment System
and Social Welfare in Japan **Haejin KWON,et al.** • 105
- Relation between the importance of school education and after-school activity programs
and age, sex, and school type for school-aged children with disabilities..... **Hideyuki OKUZUMI,et al.** • 131
- A Study on the Vitalization of Silver Industry by Analyzing the Needs of Silver
Industry in the Daejeon, South Korea **Gowhan JIN** • 138
- A Comparative study on Factor Analysis of the Disabled Employment between
Japan and Korea **Moonjung KIM,et al.** • 153
- Relationship between Teacher Mental Health that Involved
in Special Needs Education and Sence of Coherence **Kohei MORI,et al.** • 167

SHORT PAPERS

- The Analysis of Disaster Mitigation System and Research on
Disaster Rehabilitation. **Keiko KITAGAWA,et al.** • 177
- The Trend of International Research on University Learning Outcome and
Quality of Life and Mental Health of University Students
..... **Changwan HAN,et al.** • 189
- The research trend and issue of hospital school in the education for the health impaired
..... **Aiko KOHARA,et al.** • 198
- Bibliographical consideration about the current situation and the problem to be solved
about cooperation between teachers in hospital classrooms and other staffs..... **Remi KAKUTANI,et al.** • 208
- The Current Status and Issues in Korean Barrier-Free General School
..... **Eunae LEE,et al.** • 219

CASE REPORT

- Approach for the problematic behaviors of autism complicated with severe and multiple disabilities
~ a case study of a first year junior high school student in daily living ~
..... **Kazumi SUGIO,et al.** • 229